

令和5年度 周布まちづくりセンターの主な取組

事業名

地域の伝統行事 守いつなぐ！～しめ飾い・もちつき・門松～



P

●事業実施に至った背景、目的

希薄となってきた住民のつながりを復活するために！また、地域の伝統行事を守っていくために「今できること」「今だからこそやってみる」という気持ちで後継者の育成・地域行事の伝承を目的として開催する

●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

【しめ飾り】講師（地域住民）と打合せ（作成手順・説明内容の確認等）

【もちつき】杵・臼 等借用物のお願い～借用・返却までの手配（地域住民協力）

【門 松】門松用の材料の準備（地域住民協力）

D

●事業の概要

【しめ飾り】事前にワラを縛ってもらい、裏白・ゆずり葉・葉ミカン・シデを取り付けていく。玄関用と神棚用の2セット作成する。（講師より、由来や言い伝えなどの講話あり）

【もちつき】参加者が来る前より、もち米を蒸し器で蒸しておく。臼と杵を温めておく。参加者を3つのグループに分け、それぞれで餅つきを行う。「搗くひと・臼どり」を経験してもらう。出来上がったお餅をみんなで丸める。

最後に、出来上がったお餅をみんなで食べながら交流を深めていく。

【門 松】事前に、松・竹・南天を準備しておき、地域の方と一緒に玄関用の門松を作成する。

C

●事業実施後の振り返り

【しめ飾り】由来や言い伝え等分からない事が多かったが、知ることができてよかった。

今までお店で購入したものを飾っていたが、自分で作成したものを飾ることで良い年を迎えられそう。

【もちつき】「杵でつく」ところがよく、昔懐かしく感じることができた。大人数で作ると楽しく交流もできていい。

【門松】最近では、玄関に飾るところも少なくなってきたが、目を引きとても良い。

☆地域にとって季節の行事を楽しみにしておられる方が多い事がわかった。継続できるよう工夫していきたい

A

●令和6年度以降の方向性

各家庭で、季節の行事を行うことが減少してきているように感じている。その中で、センターで季節の伝統行事（節句・お月見等）を行い、交流を通して後世へとつないでいけるよう進めていきたい。

まちづくり委員会や他団体とも連携を取り合い、単独ではなく、巻き込みながら行事（事業）展開できるよう企画・運営をしていく。



【しめ飾り】
協力し合いながら作業します

【もちつき】
ヨイショ！の掛け声とともに、もちをつき、みんなで丸めています

【門 松】
地域の協力で素敵な門松が完成！
良い年を迎えられそうです